

2021年3月10日

長野県教育委

教育長 原山 隆一様

長野県赤穂高等学校

同窓会長 小原 勇

要 望 書

日頃は高校教育の充実・発展に多大なご尽力をいただき敬意を表します。

さて、県教育委員会は、2018年以来、高校教育の新たな時代へ向かっていくために「高校改革～夢への挑戦～」の具体化に向けて鋭意取り組んでおられるところですが、再編に当たって、当上伊那地域（旧第8通学区）においては再編・整備計画【一次】として伊那北高校と伊那弥生ヶ丘高校の統合によって仮称「伊那新校」が公表され、上伊那地域に設置されるとした総合学科高校及び総合技術高校については、2021年3月に公表とされています。

私たちが望む方法としては、同じ圏域である上伊那地域のあるべき高校の姿を同時に公表し、募集定員などについても同時に議論すべきだったと考えております。

私たち赤穂高校同窓会は、創立103年の歴史の上に立ち、未来を見据え、本校のあるべき将来の学びを描く「赤穂高校の将来像を共に考える集い」を設置し、同窓生、教職員、地域住民の皆さんとこれまで4回にわたる集会を開催し、県教育委員会にもご協力いただき議論を重ねてまいりました。また、生徒会役員の皆さんとも懇談をしてまいりました。

その上で、今日的な状況を捉えてみると、社会構造の変化と少子化の時代に差し掛かっていることは共通の認識として持ちながら、次代を担う子どもたちが生き生きと、自らの意思を持ちながら生きるべき道筋を自らが決めることの学びの形を創り出すことが必要との方向を確認し合いました。そのために、これまで私たちが提唱してきた地域資源（人・自然環境・文化・産業・行政・大学）から学ぶ多様な選択肢を備えた総合的な学校づくりが必要と考えます。

つきましては再編・整備計画【二次】（案）の公表前で甚だ僭越とは存じますが、下記事項について同窓会としての考え方を申し上げ、特段のご配意を以て再編・整備計画【二次】（案）の策定に当たられますよう、慎んで要望をいたします。

記

1 赤穂高校同窓会は、再編・整備計画【二次】（案）の公表において本校が総合学科への移行となった際にはこれを積極的に受け止め、次の事項について要望いたします

(1) 1917年の創立以来、地域とともに歩んできた現存の普通科・商業科の学びをベースとして、地域資源を活かした多様な選択肢を確保するために総合学科高校のメリットを活かす規模の大きな学校とし、またこれに対応する職員の配置をすること

(2)総合学科への移行の際には学校施設の整備を早急に行い、「新たな学び」と「新たな学習空間」の一体化を図ること

2 定時制を引き続き本校で継続させることを要望します

今日、生徒数の減少はあるものの、働きながら学ぶ生徒や、それぞれの事情によって定時制を選択する生徒の思いは「自分自身の生き方を考える」大切な時間とされ、加えて夜間に学ぶ特性からして、通学距離的な配慮も必要とする

以上